

北海道ぎょれん広報

# なみまるくん

[うみ・なかま コミュニケーション]

4

2018  
No.354

北海道  
ぎょれん



特集

平成30年度 ぎょれん事業計画ー前編ー  
平成29年度 全道漁協トップセミナー



特集  
SPECIAL

平成30年度  
ぎよれん事業計画 前編



ぎよれん 佐藤副会長

平成30年度が始まりました。今月と来月の2号にわたり、ぎよれんの「平成30年度事業計画」をご紹介します。

今月は平成30年度事業計画のうち、漁政対策、指導・教育事業、漁業環境保全対策事業、販売事業（全体方針及び秋鮭、ほたて）を、来月は「平成30年度ぎよれん事業計画―後編―」として、販売事業のうち、昆布・鮮魚に関する事業と、末端加工品、食の安全安心対策、宣伝販促・食育事業、購買事業、経営体制の計画をご紹介します。

漁協系統の組織力を結集し、総力を挙げて各種対策に取り組む

平成29年度の本道漁業生産量は2年連続で100万トンを大きく下回りました。秋鮭をはじめ、ほたて、昆布など主要魚種の低迷に加え、いかなど多獲性魚の減少が追い打ちをかけています。

漁業生産額は、水揚げ減少を背景に浜値が上昇したことで一定水準を維持したものの、水産関連業界にも淘汰の波が本格的に押し寄せ、地域経済にも深刻な影響を及ぼしています。

このようなかで本会は平成29年度を始期とした中期の事業推進方向に掲げた「水産王国北海道の復活」を目指し各種対策に取り組んできました。

産地加工機能の弱体化は将来に向けて大きな懸念材料ですが、今年度から回復が見込まれるオホーツク海ほたての処理対策も含め産地処理体制の維持に万全を期していきます。

消費流通面では、このところの急激な価格高騰が国内外の競争力低下を招いています。これまで拡大を続けてきた海外市場において

も、海外産地の生産回復や各国での保護貿易主義の台頭など、輸出事業を取り巻く環境に逆風が吹き始め、さらに厳しさが増しています。

基軸となる国内市場は消費者の魚離れと相まって縮小に歯止めがかかっておらず、国内消費の速やかな回復と安定化に向けて販路拡充に総力を挙げて取り組んでいきます。

購買事業については、引き続き漁業用燃油の安定供給に取り組むとともに、系統ブランド資材の普及拡大を通して漁業経営「コスト」の削減に引き続き取り組みます。

また漁政面では顕在化した資源問題への対応が急がれるところであり、資源回復措置のさらなる推進と海域の状況に見合った適切な資源管理を引き続き行政に要望していくとともに、経営支援対策や漁業後継者対策等、漁業経営の安定化と競争力強化を最重要課題として、各種取り組みを行うこととします。

加えて、国が進める働き方改革に対しては、業界全体が協調した業務改善による生産性向上対策が不可欠であり、これに向けた検討・協議を進めていきます。

これら厳しい環境の中、「浜のために・浜と

もに」という組織理念に立ち返り、平成30年度は、北海道漁業の将来を左右する正念場の年と位置づけ、漁協系統の組織力を結集し、指導・経済連合会としての機能強化とともに、総力を挙げて各種対策に取り組むこととします。

平成30年度事業計画

指導事業について

1. 漁政対策

本道漁業は資源の減少傾向が続く中、漁業資源の早急な回復、維持増大を図ることが喫緊の課題となっています。また、生産力向上のための構造改革は進展しているものの、漁業者の高齢化と減少、漁船等の生産設備の老朽化が進行しており、更なる取り組みの強化が必要です。

ついでには、これら課題の解消に向け、海域の状況に見合った適切な資源管理や資源回復措置の更なる推進、その実施のための新たな支援制度の創設とともに、担い手・後継者の確保、漁業生産設備の更新のための経営支援対策の充実を図っていく必要があります。

平成30年度の漁政対策の推進にあたっては、適切な資源管理と資源増大及び漁業経営の安定化と競争力強化により、漁業生産力を向上させることを最重要課題として、「豊かな北海道漁業の復活」に向けた取り組みを行っていくこととします。

- ① 適切な資源管理と資源増大に向けた取り組み
  - ① 漁業資源の早急な回復を図るための取り組み
  - ② 適切な資源管理の実施とTAC管理強化への対応に向けた取り組み
  - ③ 資源の維持・増大を図るための密漁や有害生物等外的要因に対する取り組み
  - ④ 各種漁法・魚種間等での関係漁業者による協議（実践協議会等）の開催を通じた資源に見合う操業体制の構築を図るための取り組み

- ② 漁業経営の安定化と競争力強化に向けた取り組み
  - ① 漁船等漁業生産設備取得・更新事業等の長期継続・拡充に向けた取り組み
  - ② 漁業所得向上実現に向けた即効性のある各支援事業や燃油税制等各種漁業「コスト」支援対策の更なる拡充に向けた取り組み
  - ③ 資源管理及び漁業の成長産業化方針に伴う国による関係法律の見直しに対する取り組み

- ③ 流通安定化に向けた取り組み
  - ① 新たな自由貿易化交渉における本道漁業への影響回避に向けた取り組み
  - ② 国内外の水産物消費拡大と流通円滑化に向けた取り組み

- ④ 各種災害被害対策に向けた取り組み
  - ① 頻発する自然災害対策に向けた取り組み

② 福島第一原発放射能汚染水の海洋放出阻止に向けた対応の取り組み



水産庁長官への要請

2. 指導・教育事業

近年、短期間のサイクルで激変している社会、経済情勢の中で、漁協が直面している様々な課題も組合員意識とともに多様化しています。今後、漁協に力を結集する中で、組織的に対処する重要性が更に増していくことから、対処への基本となる組織基盤の確立に向けて、内部統制強化による経営の適正化と役員を初めとする人材の育成・確保への取り組みを支援していきます。

- ① 漁協経営健全化指導の継続実施
  - ① 経営健全化が課題となっている漁協に対する漁協経営強化推進本部を通じた重点的指導・支援の継続実施

**(2) 漁協経営の適正化向上のための指導  
監査及び経営指導の充実**

- ① JF全国監査機構による監査を通じた改善指導の継続実施
- ② 漁協における内部監査の定着に向けた担当者育成及び指導
- ③ 法令改正に関わる対応他、法令規程等遵守に向けた実務指導の実施

**(3) 教育研修活動の充実、支援**

- ① 全道漁協教育研修計画（平成28年度～30年度）に基づく役員研修の充実
- ② 次期（平成31年度～33年度）研修計画策定に向けたアンケート実施等内容検討
- ③ 漁協における体系的かつ自発的な職員研修実施に向けた取り組み支援

**(4) 人材育成対策**

- ① 漁協青年部活動の支援と組織育成
- ② 全道協力組織（漁業士会、職員協議会等）の事業活動を通じたリーダー育成
- ③ 漁協における協同組合運動啓発活動促進のための支援（啓発資料提供、講師幹旋等）



漁協の一般職員を対象とした、全道漁協職員研修会

**②「お魚殖やす植樹運動」を広く浸透させるためのホームページの充実**



全道で行われる「お魚殖やす植樹運動」

**販売事業について**

2年連続85万トン前後の水揚げに留まったことで、北海道の水産業は過去に類をみないほどの厳しい環境にさらされています。生産量の減少は水産加工業者に厳しい経営を余儀なくするとともに、国内消費の減退に拍車をかけ、また、年々拡大を続けていた海外輸出も調整局面を迎え、国内外双方を見据えた販売戦略の構築が課題となっています。この状況下、国内外市場に向けて安全・安心な「北海道ブランド」の発信に努めるとともに、各種流通対策・宣伝事業と連動した諸対策を拡充・強化していきます。

**○市場**

安定流通・魚価維持のための産地市場対策

**(5) 指導部門の情報提供**

- ① 指導部門情報・ホームページの充実

**3. 漁業環境保全対策**

海獣等の有害生物による漁業被害軽減に向けた取り組みを強化するとともに、度重なる気象災害による被害防止を図るため、流木発生抑止対策の実現に向けた取り組みを更に強化し、併せて処理対策事業の効果的な活用推進と新規事業の創設を求めています。加えて、全道における植樹活動の発展と拡大に向けた取り組み強化を図るなど、漁業者が後世にわたって安心して生産活動に取り組める漁場環境づくりを目指し、河川と海洋両面における総合的な環境保全対策の一層の強化を図ります。

**(1) 有害生物による漁業被害防止対策の強化**

- ① 海獣類やザラボヤなどの有害生物による漁業被害防止対策の拡充強化
- ② ハンター確保に係わる諸対応の推進

**(2) 河川と海洋環境保全対策の取り組み強化**

- ① 工事濁水・排水対策関連
  - ア・各管内一体となった総合的かつ効果的な協議の実施
  - イ・パトロール活動等による土砂、濁水流出防止に向けた協議対応
- ② 大規模インフラ整備関連

の継続

- (1) 地域基幹魚種対策の推進
- (2) 鮮魚加工流通ネットワークによる鮮魚対策の推進
- (3) 市場衛生管理体制の強化

**○加工**

- 漁協工場・協力会社・関連会社との加工機能強化
  - (1) 漁協工場・協力会社・関連会社との組織的連携による機能の強化
  - (2) 原料減少に対応した安定的な稼働体制の確保
  - (3) フードディフェンス、品質・衛生管理、法務体制の更なる高度化

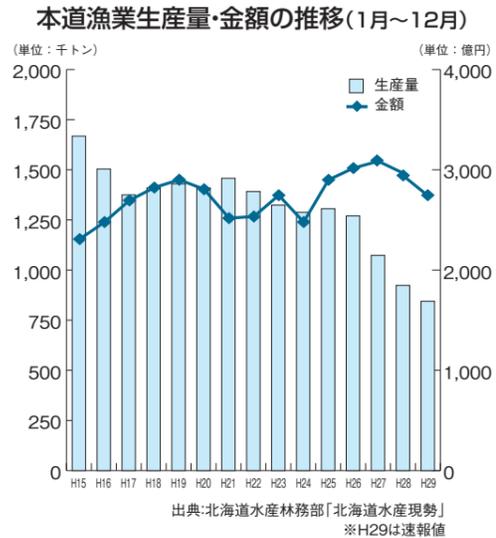
**○流通**

- 国内販売対策
  - (1) 多様化するマーケットに対応した商品開発と販売体制の強化
  - (2) 会員及び重点取引先との関係強化による安定した集荷体制の確立
  - (3) 販売戦略と連動した販促活動の実施
- 輸出対策
  - (1) 原料輸出体制の維持と末端加工製品の開発・販売強化
  - (2) 輸出入リスク（為替・与信管理）管理体制の継続
  - (3) 輸出手続き簡素化に向けた行政等との連携

- ア・新幹線トンネル工事に係わる湧水や有害物質対策の更なる強化
- イ・各種道路工事における橋梁架け替えや改修に係わる協議の推進
- ③ 流木等海岸漂着物関連
  - ア・関係行政や流域自治体および森林関係団体との一体化による、各地区の河川実態に見合った流木発生抑止対策の構築に向けた協議対応
  - イ・海岸漂着物処理事業の拡充に向けた取り組み対応
- ④ 農業関連
  - ア・家畜排せつ物流出防止対策の強化
  - イ・害虫防除に係わる農薬類の流出防止や農地崩落対策の協議推進
  - ウ・大規模畜産関連施設建設に係わる排水処理対策の強化
  - エ・農業団体との環境改善に向けた建設的協議の実施
- ⑤ 海洋環境関連
  - ア・サハリン原油開発やタンカー等による油流出事故未然防止対策の推進
  - イ・油流出事故への対応方法や防除体制整備に係わる講習会の開催支援
  - ウ・洋上風力発電等各種エネルギー開発に係わる協議対応の強化
  - エ・海底資源調査の関係地域と連携した協議対応取り進め

**(3) 森林環境保全対策の推進**

- ① 植樹活動未実施漁協の啓発推進と活動資金確保に向けた対応強化



**1. 秋鮭**

昨年の道内における秋鮭の水揚げは漁期当初から低調に推移し、その後も本来の水揚げに回復する兆しがなく、最終的に数量は昭和55年以降の最低水準となる5万7百トン、平均単価は前年を大きく上回る972円/kgとなりました。

製品の状況については、近年経験のない高値となったことから、漁期中の流通が混乱し、親・魚卵製品ともに安価な海外物に切り替わるなど、国内外の売場が大幅に縮小しており、危機的状況に直面しています。

また、魚価は高値を維持しているものの、世界の鮭鱒供給量は養殖サーモンの安定的な生産に支えられ350万トン超の体制が継続しており、今後、水揚げが回復し需給バランスが崩れた際には、道産秋鮭にとって更なる影響が危惧されます。

このため、平成30年度においても、秋鮭の消費安定を図るためには、取り巻く環境の変化を的確に捉え、秋鮭流通対策協議会と連携した施策の継続実施が必要不可欠であり、国内・海外における秋鮭製品の販路堅守に向けた取り組みを計画的に推進していきます。

① 生鮮対策

- ① 旬期消費の伸長を目的とした生フィレ・生筋子の販売強化
- ② 水揚げ状況に連動した生産・販売体制の整備
- ③ 道産秋鮭の認知向上に向けた販促の拡充
- ④ 年間を通じたフレッシュ販売の強化（解冻フィレ他）
- ⑤ 生鮮輸出の検討



旬期には、全国の量販店で秋鮭をPR

② 国内対策

- ① 冷凍・定塩フィレ製品の販売強化と現行販路の死守

① 水揚げ対策

- ① オホーツク・根室地区
  - ア．小型化予想における、国内及び輸出への販売拡大が可能なサイズ別指標価格の早期提示
  - イ．指標価格に沿った原貝値決めの実施
  - ウ．原貝の広域流通による水揚げの円滑化
- ② 噴火湾地区
  - ア．冷凍原料貝・ボイル製品等の処理仕向け動向による原貝価格への影響掌握
  - イ．組合・加工業者との流通状況共有による、市況に沿った原貝価格の形成
  - ウ．青森県との原貝搬出入及び加工実態の掌握による製品流通動向の確認
  - エ．海洋環境の変化に対する安定生産の継続に向けた情報の発信
  - オ．加工業者稼働実態、経営内容等の状況掌握
- ③ 留萌地区
  - ア．H32年産以降の稚貝値決め時期・方法の課題協議（北海道ほたて漁業振興協会事業）
- ④ 貝毒対策
  - ア．道・ほたて流通食品協会と連携した貝毒管理及びトレーサビリティ体制の強化
  - イ．青森県・青森県漁連との貝毒・原貝情報の共有管理体制の継続
- ⑤ 生産基盤整備対策
  - ア．北海道ほたて漁業振興協会・道総研と連携した安定生産確保に向けた各種試験調査の実施

- ② 高次加工品（生食、切身、即食品等）の商品開発並びに販路構築
- ③ 需要安定化に向けた国内・海外加工の継続
- ④ 道産・天然を訴求した全国的な通年販促の拡充
- ⑤ 補助事業（需給調整事業等）の活用検討

① 魚卵製品

- ① 製品の早期消化に向けた販売の強化
- ② 国内・外の販路の再構築と連携強化（量販、業務筋、外食、中食）
- ③ 安定流通に向けた適正処理配分の推進
- ④ 販路死守に向けた全国的な通年販促の拡充

③ 輸出対策

① 原料輸出

- ① 中国向け販路の再整備
- ② 中国以外の搬出ルートの堅守と販売強化（台湾、タイ、シンガポール等）

② 製品輸出

- ① 中国内販向け販売強化
- ② 東南アジアを中心とした販路の再構築
- ③ 海外加工品も含めた末端製品の搬出ルートの確立

④ その他

- ① 世界標準レベルの水産エコラベル認証取得に向けた関係機関との連携強化
- ② 輸出境整備に向けた国・道との連携強化並びに取り組みの推進

⑥ MSC 漁業認証

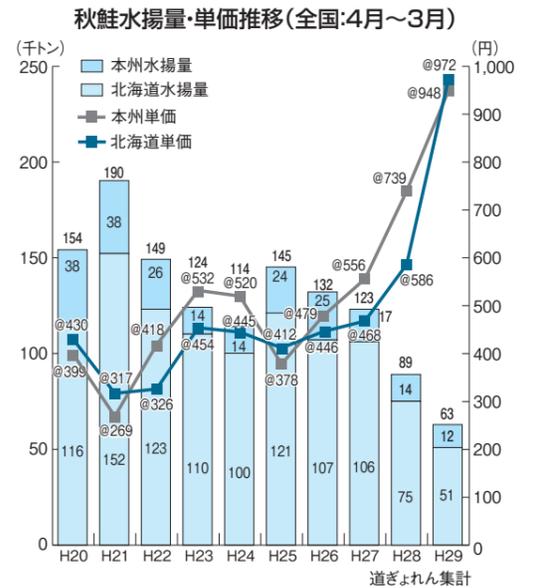
- ア．認証活用による国内外での北海道産ほたてのブランド化戦略推進

② 流通対策（北海道ほたて漁業振興協会と連携）

- ① 国内対策
  - ア．末端販売先における消費回復及び拡大に向けた流通対策の実施
  - イ．国内向け製品生産対策としての製品形態・価格対策の実施
  - ウ．消費地における地区別消費特性を踏まえた宣伝販促の強化
- ② 輸出対策
  - ア．国内需給バランス維持に向けた輸出促進
  - イ．米国の日本食レストランの増加傾向を踏まえた、水漬けしない製品メーカーとの開拓継続
  - ウ．冷凍原料貝・活貝輸出の実態掌握と貝毒管理等の問題点の洗い出し及び対応策の協議
  - エ．輸出対象国における偽造品（製品・安全証紙）対策の継続実施

③ 製品別販売の考え方

- ① 玉冷
  - ア．小型サイズ製品の集中生産対応として、国内における消費回復への取り組み
  - イ．小型化の影響による製品化促進策として、加工業者間の在庫状況を踏まえた製品融通による国内販売の確保
- ② ボイル
  - ア．小型サイズ製品の集中生産対応として、国内における消費回復への取り組み
  - イ．小型化の影響による製品化促進策として、加工業者間の在庫状況を踏まえた製品融通による国内販売の確保

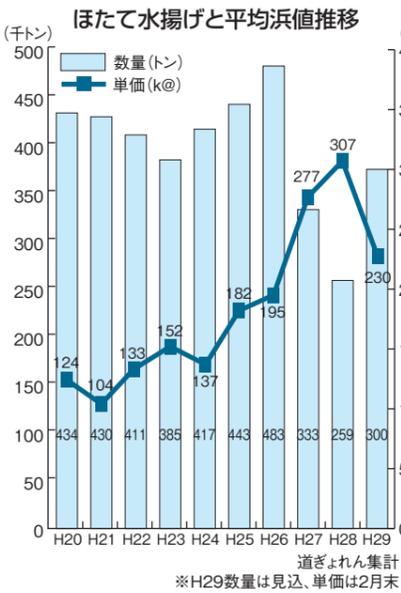


2. ほたて

昨年度の全道ほたて水揚げ数量は前年より4万トン多い30万トンとなりました。平成30年度はさらに増産が見込まれ、時化被害やへい死の影響による減産から資源は回復に向かっています。これにより、近年の課題であった加工業者の稼働不足が解決され、今後は水揚げされる原貝を処理しきれないという新たな課題の発生が予想されます。

流通面では、これまで好調であった各国への輸出が停滞しています。これは、米国の水揚げ回復が大きく影響しており、平成30年度は過去最高水準の資源量が見込まれています。また、高値により縮小した国内市場は、製品全般の価格下方修正にも関わらず、消化はそれほど伸びていない状況にあります。

平成30年度はほたてを取り巻く様々な課題に対応し、製品の円滑な流通に繋がるよう、北海道ほたて漁業振興協会と連携した対策を計画的に実践していきます。



# 平成29年度 全道漁協トップセミナーが開催されました



3月3日(金)、札幌の第2水産ビルにおいて、ぎよれんと信漁連の共催により、「平成29年度全道漁協トップセミナー」が開催され、全道の漁協組合長や専務・参事、系統団体の役員等約120名が参加しました。当日は生憎の悪天候による出席予定者の欠席や講師の変更など、慌ただしい中で開催となりました。今回は急な依頼にもかかわらず快く講師を引き受けて頂いた、前日本ハムファイターズ内野守備走塁コーチ兼作戦担当の白井一幸さんの講演内容をご紹介します。

## 講演

### 『北海道日本ハムファイターズの 人材育成』



前日本ハムファイターズ  
内野守備走塁コーチ兼  
作戦担当  
白井 一幸さん

私は香川の漁師の家で生まれ育ち、祖父はのり養殖を、父はぶりの養殖をいずれも県内で早い時期に始めた人でした。その遺伝か、私も新しいことをするのが好きで、今では当たり前となっていますが、当時は禁止されていたウエイトトレーニングや、オリンピックが行うようなものだったメンタルトレーニングを野球に取り入れました。

### 白井 一幸さん紹介

昭和36年6月7日香川県生れ志度商業高校・駒澤大学卒。  
昭和59年ドラフト1位で日本ハムファイターズ入団。  
昭和62年ベストナインとゴールデングラブ賞受賞。  
平成3年自身最高の打率・311でリーグ3位、最高出塁率とカムバック賞を受賞。  
平成6年二塁手のシーズン最高守備率日本記録と連続守備機会無失策のリーグ記録達成。  
平成8年日本ハムファイターズの球団職員となり、ニューヨークヤンキースへコーチ留学。  
平成11年二軍総合コーチ、平成12年に二軍監督を経て、平成14年からヘッドコーチに就任。ヒルマン監督の参謀役を務め、平成18年・19年と球団史上初となる二年連続ハリーグ制覇の栄冠を勝ち取る。特に、選手育成については主体性を持たせる指導法としてコーチングを導入。二軍選手を連覇時の主力選手に育て、内外より高い評価を得た。  
平成19年シーズン終了後退団。  
平成20年・カンザスシティロイヤルズ特別コーチ兼スカウトアドバイザー。  
平成23年・横浜DeNAベイスターズ二軍監督就任。  
平成24年・中畑清監督就任に伴い、一軍守備走塁コーチ就任。シーズン終了後退団。  
平成26年より、北海道日本ハムファイターズ内野守備走塁コーチ兼作戦担当に復帰。  
平成28年、10年ぶりの日本一に貢献し、平成29年、退団。

北海道に移転して15年、5回のリーグ優勝2回の日本一を成し遂げ、今こそ常勝チームとなりましたが、私が入団した当時の日本ハムファイターズ(以下ファイターズ)は、弱小チームでした。

私は現役時代は1度も優勝したことがありませんでしたが、指導者となるからには優勝したい。引退後、球団職員として世界一強いチーム、ニューヨークヤンキースへコーチ留学をしました。そこで驚いたのは、一軍から六軍の選手のみならず、グラウンド整備、清掃まで、ヤンキースに関わる全ての人が世界一のチームとなることを目指している事でした。チームの一員であることに誇りを持ち、自らの役割をきちんと果たしていました。

ファイターズに戻り、二軍コーチになった際、選手に「日本一になりたいか?」と問いました。我々は目指したところに行か行けず、日本一を目指すことはすぐにはできない。「今日は日本一の練習ができたか」と日々選手に問いつつながら練習をしました。



### 勝利には実力・チームワーク・運が必要

2006年、ファイターズは44年振りに日

本一となりました。日本一を目指し、それにふさわしい練習をした結果が出ました。

野球で勝つには、「実力・チームワーク・運」が必要です。1つ目の実力を高めるためには練習も欠かせません。量と強度のバランスが取れた「質」の高い練習が理想的です。質が高いというのは、目的に対し、効果的なものを言います。また、ファイターズでは、移動日になることも多い月曜日を完全休養日としています。他球団では練習日に行うこともありますが、この日に休めなかつたら、きちんと休める日がなくなってしまう。休むことも質の高い練習を維持するために必要なんです。また、「頑張っているのに結果が出ない」という人もいます。そんな時には、頑張る方向性が正しいのか、頑張ること自体が大切になっていないか考えることも必要です。

2つ目のチームワーク。これは、仲が良いこととは違います。目標を同一として、自らの役割と責任を全うし、他者がそうでない時には見て見ぬふりをしないで関わり続けられることができる人たちのことです。こうあることで、自分も伸び、相手も伸び、チームも伸びていきます。能力・実力のある、良い選手を集めるだけでは強いチームにはなりません。良い選手というのは影響力があるので、そういう選手が数人、同じ方向を向いてエネルギーを発揮することが大切なのです。それが「チームワーク」になります。

そして、3つ目の運。運は「引き寄せる」ものです。日々の練習や試合など、色々なことに

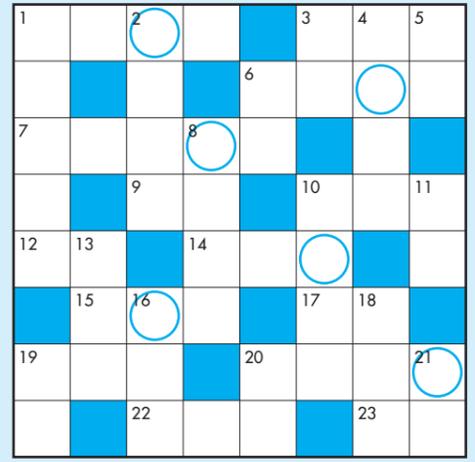
全力で取り組むと、それは実力や人望、信頼につながり、同じ結果でも評価が変わります。同じミスでも、「あいつならやりかねない」となる一方、「あいつのミスなら俺が取り返す」と奮起し、良い結果につながります。それが「運」を引き寄せ、運が良くなるということだと思います。プロ野球には80年の歴史があり、練習内容はどこもそうは変わりません。だからこそ、取り組み方で結果に差が出ます。結果を変えなければ、考え方を換え、行動を換える。「世界の練習をする」という考え方に換えることは今すぐできるのです。

選手が成長するために、チームが強くなるために関わり続けるのがコーチの仕事。関わり続けることで選手に嫌われることもありません。それでも、我々にできるのは、ひたすら種を蒔いて、環境を整え、手塩にかけて育てるだけ。選手には、「やるかやらないかは自分で決めなさい。その結果、試合に出られるかの責任も自分でとりなさい」と言っています。最終的な決定は相手にゆだねているのです。



# クロスワードパズル

次のクロスワードを完成させ、○印に当たる言葉をうまく並べてください。年度初めの4月を迎え、学校や職場に新しいメンバーが加わる季節となりました。子どもも大人も、新しい環境に身を置けば誰でも最初はピカピカの新人さん。環境が変わった人も変わらなかった人も、フレッシュな気持ちを忘れずに過ごしていきたいですね。



○印に当たる言葉をうまく並べてください。

解答  となります。

くわしい応募方法は、17ページをご覧ください。抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

**3月号の解答と当選者**  
コオリワリ

ヒ	シ	モ	チ	ヨ	セ	ン
ナ	ウ	カ	イ	セ	ン	
マ	ハ	ラ	ガ	マ		
ツ	ガ	ル	カ	キ	イ	レ
ウ	イ	ツ	チ	オ		
イ	チ	ウ	ト	ウ	ヤ	
ム	シ	バ	コ	リ	ン	
シ	ユ	ン	ミ	ン	シ	マ

(小樽市)西谷内優菜さん  
(函館市)竹内ユキ子さん  
(苫小牧市)S.Yさん  
(利尻富士町)神成 正枝さん  
(札幌市)鈴木 麻代さん

## 間違いさがし

間違いは5つです。

※右と左の絵には、5か所の異なるところがあります。さあ、見つけてください。(印刷のズレや汚れは関係ありません。)



※答えは17ページにあります。

表紙に登場いただいたご家族を紹介いたします。

## 今月の家族の物語



【林さんご一家】 林 強徳さん(34歳)、佑妃さん(32歳)、和華芭ちゃん(12歳)、志唯奈ちゃん(10歳)、妃茉莉ちゃん(7歳)、強心くん(1歳)

※写真は強徳さんの母 徳子さんと共に

「浜の家族物語」では、「なみまるくん」の表紙に登場いただいたご家族を紹介します。今回は、標津漁協の林さんご一家です。

### 標津の水産物をより多くの人に知ってもらいたい

春はなまこ漁、夏はえび漁、秋はたこ漁、冬はかれいとたら刺し網漁と忙しい日々を送っている強徳さん。両親が青森から標津に来て漁師になった2代目です。「浜の仕事は全部楽しいよ。大変なこともあったけど、嫌なことはなかった。小学校の頃から漁師になりたかったしね。青森の親戚もほたて漁師をしてて、そっちに遊びに行った時もほたて漁を手伝ってる」と笑います。

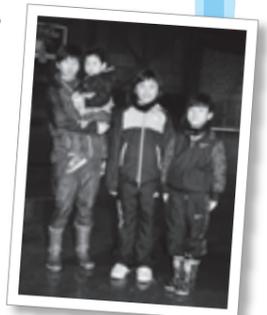
様々な部会に所属する漁師の横のつながりを作ろうと、「標津漁師会」を立ち上げて2年目。副会長として、道の駅での直売会や農業団体と協力した食堂のイベントなどに取り組んでいます。「今年はより良い形で活動ができるよう、一般社団法人化を目指しています。標津の水産物の魅力をより多くの人に知ってもらいたいですね」と抱負を話してくれました。

### 4人姉弟に犬1匹、猫3匹の賑やか家族

佑妃さんは隣町の別海出身。結婚後、強徳さんの「指導」で魚の網外しなどを習得しました。その甲斐あってか、作業の速さは強徳さんも太鼓判。「魚外すのは楽しいですよ」と佑妃さんも笑います。

長女の和華芭ちゃんは中学1年生。陸仕事の際には、妹たちを従えて網の補修を行うしっかり者です。次女志唯奈ちゃんは小学校5年生。負けず嫌いな所がパパそっくりで、将来は漁師になりたいそう。三女妃茉莉ちゃんは小学校2年生。かわいいものが好きで、ネイリストに憧れているそうです。三姉妹はそろって柔道に打ち込む日々を送っています。4月には2歳になる長男 強心くんはアンパンマンに登場するてんどんまんがお気に入り。ペットの犬や猫たちも格好の遊び相手です。

「これからは、船を自分で直せるように、溶接機が欲しいかな」と話す強徳さん。なまこ漁の時期を迎え、忙しくも充実した新年度が始まります。



## 黒そい

黒そいも日本各地で漁獲され、北海道では春と秋に多く漁獲されます。白身で上品な味わいから、「北の鯛」などと呼ばれることもあるようです。室蘭市では「市の魚」にも指定されています。

卵ではなく、少し成長した仔魚で産み落とす生態を持っています。

## あさり

北海道では8月が産卵期のあさりですが、多く漁獲される本州以西では春と秋の2回産卵期があり、それに向けて栄養をため込むこの時期が旬とされています。好きな海の幸ランキングでは、えびに次いで2位にランクイン（2017.6/マルハニチロ調べ）するなど、通年安定して手に入る、身近な食材です。



## できあがり!



おいしく  
いただきました

**本日のお品書き**

- ・にしんの塩焼き
- ・黒そいの塩煮
- ・あさりと春キャベツの蒸し物

調理時間 **20分**

にしんはシンプルな塩焼き、黒そいは昆布としょうがで塩煮、あさは春キャベツとレンジで蒸し煮にしました。少し小さめのにしんの為か、特徴的なY字の骨も気にならず、しっとりとした身と香ばしい皮がおいしさを引き立てていました。黒そいは熱湯に入れたので魚の臭いも出ず、昆布だしの旨みと添えた菜の花も相まって魚の甘味を感じる一品になりました。身離れがとても良く、鯛に例えられることも納得です。北海道のあさは大きいと感じることが多いですが、今回のように蒸し物にすると見た目にも華やかで食べごたえを感じます。冷凍もでき、和洋中、何にでも使いやすいのもあさりの魅力です。

旬の食材は、おいしく価格も手ごろで栄養もたっぷりと嬉しいことがたくさん。お腹も心も満たされる、おいしい料理ができました。



あさはシリコンスチーマーを使用して調理しました(上)  
いざ実食。いただきます(下)



# ひとり居酒屋

## はじめました! 春編

水産王国北海道には旬に食べたいお魚が目白押し。そこで料理の趣味と、「浜のおかあさん料理教室」担当4年のアシスタント経験を生かし、矢幡職員がお魚料理に挑戦。一人居酒屋の調理人とおいしさ伝えるレポーターの一人二役で、旬の魚を紹介します。

札幌のぎょれん本所近くの魚屋さんの品ぞろえにも季節の移り変わりを感じます。今回のお品書きは、にしんの塩焼き、黒そいの塩煮、あさりと春キャベツの蒸し物の春らしい3品です。

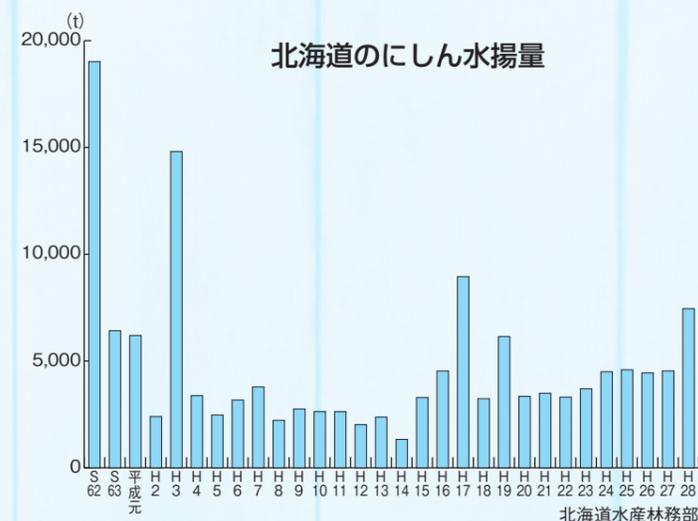
## にしん

にしんは春告魚とも呼ばれ、小樽での群来はメディアでも紹介されることの多い春の風物詩。「にしん」は春の季語でもあります。明治～昭和初期のにしん漁が盛んだった時代に多く生産された「練粕」は、菜種や綿花の栽培時に肥料として大量に使用されていたそうです。北前船の時代、昆布とともににしんは松前藩の経済を支える商品でした。現在でも、身はもちろん、かすのこや子持ち昆布、京都名物にしんそばなどとして広く食べられています。昨年、今年と水揚げは増加傾向。今後も安定した水揚げが続くことが期待されます。

なお、にしんはヨーロッパでも食べられており、「世界一臭い食べ物」と言われることもある「シュールストレミング」は塩漬けにしんの缶詰です。



札幌の魚屋でも春の魚が増えてきました



尾びれに塩をしっかりとつけて形を保ち、香ばしく焼き上げます



# 全道漁協購買事業推進会議が 開催されました

新たに得た知見を青年部活動へ活かしていきます

## 全道各地で地区漁青連大会が開催されました

01

2月から3月にかけて、漁協青年部員相互の研鑽に努める地区大会が各地で開催されました。

日高地区では、気象予報士の菅井貴子さんを講師に「地球環境と異常気象」と題したお話を伺いました。講演では特に今年度の積雪の多さとその要因についてわかりやすく解説頂いたほか、会場となった静内の天候についてもお話しいただくなど、身近な内容が好評でした。

50回の記念大会となった小樽地区では、地元小樽ビールの社員を講師に招き、魚とビールの相性や人の口に入るものをつくるこだわりについて学びました。いずれの地区でも見識を深め、青年部活動に活かせる大会となったようです。



日高地区の講師を務めた気象予報士菅井貴子さん。地元の天気を明るくわかりやすい語り口で解説していただきました

第23回全国青年・女性漁業者交流大会で道内団体が発表

## 農林中央金庫理事長賞、 JF全国女性連・JF全国漁青連会長賞を受賞しました

02

3月1日(木)、2日(金)に東京都千代田区で「第23回全国青年・女性漁業者交流大会」が開催されました。この大会で発表される内容は、各都道府県の漁業者交流大会で発表されたもののうち、優秀なものが推薦されており、北海道からは1月に開催された漁業者交流会で選抜されています。

内容に応じて5つの分科会に分かれて発表され、網走漁協藻琴第一部の「藻琴の水が育む「寒シジミ」の安定生産を目指して一袋網蓄養による操業の効率化」と、えりも漁協えりも岬地区女性部の「パルシステム生活協同組合連合会との交流事業―漁協の協力組織として、届けた浜の思い―」がともに農林中央金庫理事長賞を、標津漁協ほっかいえび漁業着業者の「ホッカイエビの資源管理―ゼロからの再出発 できることから一歩ずつ―」がJF全国女性連・JF全国漁青連会長賞を受賞しました。

えりも漁協えりも岬地区女性部川崎尚子部長は、「皆で丸となった取り組みが評価されたこと、北海道から参加した3組がそろって受賞できたことをとてもうれしく思います。これからも関係者一同協力して事業にあたり、昆布の魅力を広めていきたいです」と今後の意気込みを話しました。



消費地での生協会員を対象とした料理教室について発表したえりも漁協川崎部長

3月9日(金)、ロイトン札幌にて、全道の漁協購買担当者とぎよれん及びグループ会社が参加して、「平成29年度全道漁協購買事業推進会議」が開催されました。

本会議は系統購買事業全般についての認識を共有化し、購買製品の研修で専門知識の向上を目指すとともに、全道規模での連携を強化する目的で開催されています。

会議は平成30年度のぎよれん購買事業方針及び推進内容の説明に始まり、最新の石油情勢についての解説がありました。続いてぎよれん購買部の若手職員により「一段ポール製品の動向」「コカコーラ製品の利用」「高圧洗浄機ジェットパワーについて」の紹介がありました。

また今回の会議では、ぎよれんマリノサポート、ぎよれん設計センター両社の業務内容や営業エリアの説明が行われ、グループ会社を含めたぎよれんの購買業務体制について紹介しました。

休憩後に開催された研修会では、「ロープの基礎知識とGKスーパーロープについて」と題した研修が行われ、系統ブランドGKロープの製造元である株式会社魚津製綱所・晒屋営業部長による講演がありました。



GKスーパーロープは、浜の皆様のご意見をもとに開発されました



ぎよれん購買事業の平成30年度事業方針を説明する、購買部・中村部長



会場の後方には系統ブランド資材が展示され、商品の特徴などが紹介されました



全道各地区の購買事業担当者が参加し、研鑽を深めました



